

同時発表：内閣府

平成31年2月12日  
都市局市街地整備課**自動運転車両がニュータウンの移動の足を支えます！  
～多摩市、三木市で実証実験が始まります～**

国土交通省・内閣府では、高齢者等のモビリティ確保の観点から、ニュータウンにおける公共交通ネットワークへの自動運転サービスの社会実装に向け、以下の地区・日程において、自動運転車両を用いた実証実験を行います。（詳細は別紙を参照）

国土交通省・内閣府では、昭和40～50年代に大量に供給された郊外住宅団地（ニュータウン）における公共交通ネットワークへの自動運転サービスの社会実装に向け、交通利便性や安全確保、持続可能な運営体制などの課題を整理し、実証実験を通じて課題解決に向けた対応策を検証することとしております\*。

この度、以下の地区・日程により自動運転車両を用いた実証実験を行います。

※ 検討状況等は国土交通省HPを参照 ([http://www.mlit.go.jp/toshi/toshi\\_gairo\\_tk\\_000079.html](http://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_gairo_tk_000079.html))

**実証実験の検証項目**

【運用面】交通利便性の向上、交通安全の確保、運行方式、他交通手段との連携等

【事業採算面】持続可能な運営体制、持続可能なビジネスモデル 等

【社会受容面】サービス利用者及び近隣住民の社会受容性 等

**実証実験概要**

地区	実験主体	ニュータウン・地区名	実験期間	実験内容
東京都 多摩市	(株)日本総合研究所 京王電鉄バス(株)	多摩ニュータウン 諏訪・永山団地	2月18日(月) ～24日(日)	端末交通（自宅～バス停等）としての短距離移動
兵庫県 三木市	日本工営(株) 大和ハウス工業(株)	緑が丘ネオポリス・ 松が丘ネオポリス 緑が丘・青山地区	2月16日(土) ～22日(金)	地区内の複数の拠点や住宅をつなぐ移動

(実証実験に関する問い合わせ先)

【多摩市】京王電鉄バス株式会社運輸営業部

乗合事業担当：田崎、南波、小野寺 TEL 042-352-3713

【三木市】日本工営(株)経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

担当：高橋 TEL 03-5276-2454

大和ハウス工業(株)広報企画室 広報グループ

担当：佐野 TEL 06-6342-1381



※本調査は、内閣府戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)自動運転(システムとサービスの拡張)のプロジェクトの1つとして、管理法人の国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)において実施するものです。

問い合わせ先

国土交通省 都市局 市街地整備課 (担当：野村、杉山、岩井)

TEL: 03-5253-8111 (内線: 32714, 32733, 32738) 03-5253-8412 (直通) FAX: 03-5253-1591

## ニュータウンにおける自動運転サービス実証調査 主な検証項目

	項目	主な検証内容
運用面	交通利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ニュータウンにおける交通利便性の向上効果</li> <li>・段差・勾配などの高低差の負荷の解消</li> <li>・運行ルート、停車箇所や目的施設に対する利用者の満足度 等</li> </ul>
	交通安全の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>○走行時の安全性の確保</li> <li>・生活道路での歩行者、自転車との混在時の安全性</li> <li>○自動走行時における緊急停止・手動介入発生状況の把握</li> <li>・発生時の挙動及び発生要因の把握</li> <li>・発生時の対応状況、対応への乗客の満足度 等</li> </ul>
	運行方式	<ul style="list-style-type: none"> <li>○デマンドシステムの利便性</li> <li>・予約システムの利便性</li> <li>・待ち時間の許容度</li> </ul>
	他交通手段との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他交通手段（バス）との連携</li> <li>・乗換場所の適切性、乗換の利便性</li> </ul>
事業採算面	持続可能な運営体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>○使用する車両に求められる機能</li> <li>・利用者の視点から車両に求める機能・要件</li> <li>○サービス面で求められる事項</li> <li>・運行ルート、運行頻度、利用時間帯、乗換時間、待ち時間等の各種項目に対する満足度</li> <li>○公共交通として持続可能な運営体制のあり方</li> </ul>
	持続可能なビジネスモデル	<ul style="list-style-type: none"> <li>○利用者の支払い意思額</li> <li>○運賃以外の収入源の確保方策</li> <li>・利用者や近隣住人が求めるサービスや支払い意向の確認</li> <li>○社会実装に必要な費目の把握</li> </ul>
社会受容面	サービス利用者及び近隣住民の社会受容性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自動運転技術そのものへの受容性の変化</li> <li>○自動運転が地域に実装されることへの意向の変化</li> <li>・沿道での混在走行に対する受容性</li> </ul>